

令和6年度生野区区政会議 第1回全体会

1 開催日時

令和6年7月23日（火） 19時00分～

2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

3 出席者

(区政会議委員) 20名

森口委員、長谷川委員、西村委員、加藤委員、中村（寛）委員、衣川委員、須郷委員、藪本委員、井筒委員、玉井委員、北口（英）委員、田村委員、福田委員、北口（充）委員、足立委員、安委員、中村（一）委員、川中委員、山納委員、今井委員

(大阪市会議員) 4名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

(大阪府議会議員) 1名

角谷議員

(その他関係者) 6名

田中様、多田様、和田様、新井様、伊藤様、船方様

(生野区役所) 16名

筋原生野区長、小原副区长、大川企画総務課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、山崎安心まちづくり担当課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、徳元教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、松藤生活支援担当課長、小川保健福祉課長、藤原子育て・地域福祉担当課長、宮城窓口サービス課長、森区政推進担当課長、武田企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

(1) 部会報告

くらしの安全・安心部会/まちの未来部会/こどもの未来部会

(2) その他

- ・資料1 令和5年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）
- ・参考資料1 主なご意見等と区の考え方、対応
（令和6年度 第1回生野区区政会議 暮らしの安全・安心部会）
- ・参考資料2 主なご意見等と区の考え方、対応
（令和6年度 第1回生野区区政会議 まちの未来部会）
- ・参考資料3 主なご意見等と区の考え方、対応
（令和6年度 第1回生野区区政会議 こどもの未来部会）

5 会議内容

○森区政推進担当課長

それでは皆さま、大変お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第1回生野区区政会議全体会を開催させていただきます。

本日はご多用のところ、当会議にご出席いただきましてありがとうございます。私は事務局の生野区役所企画総務課、森と申します。着座にて失礼させていただきます。よろしくお願ひいたします。

それでは、まず最初に、本日ご出席の委員の皆さまをご紹介させていただきます。委員名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれた際はお手数ですけれども、ご起立いただきますようよろしくお願ひいたします。

森口委員でございます。

○森口委員

よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

長谷川委員でございます。

○長谷川委員

よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

西村委員でございます。

○西村委員

よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

加藤委員でございます。

○加藤委員

よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

中村寛子委員でございます。

- 中村（寛）委員
中村です。よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
衣川委員でございます。
- 衣川委員
よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
須郷委員でございます。
- 須郷委員
よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
藪本委員でございます。
- 藪本委員
よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
井筒委員でございます。
- 井筒委員
よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
玉井委員でございます。
- 玉井委員
こんばんは。よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
北口英晃委員でございます。
- 北口（英）委員
よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
田村委員でございます。
- 田村委員
よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
福田委員でございます。
- 福田委員
よろしくお願いいたします。
- 森区政推進担当課長
北口充宏委員でございます。

○北口（充）委員
北口です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○森区政推進担当課長
足立委員でございます。

○足立委員
こんばんは。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長
安委員でございます。

○安委員
よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長
中村一仁委員でございます。

○中村（一）委員
よろしくお願ひいたします。

○森区政推進担当課長
川中委員でございます。

○川中委員
こんばんは。よろしくお願ひいたします。

○森区政推進担当課長
山納委員でございます。

○山納委員
よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長
今井委員でございます。

○今井委員
よろしくお願ひいたします。

○森区政推進担当課長
なお、川本委員、栗津委員、永裕委員、村岡委員、倉本委員、西野委員、廣川委員につきましては、所用によりご欠席とご連絡をいただいております。さらに、塚本委員、平島委員、島本委員は、現在のところまだ到着されておられませんので、併せてご報告させていただきます。

本日の会議は、委員定数 30 名に対しまして、20 名の出席がございますので、定数の 2 分の 1 以上の出席にて有効に成立をしていることをご報告いたします。

そして、本日の傍聴者は 0 名となっております。

続きまして、条例第 8 条 1 項に基づきます市会議員の皆さまのご出席についてご報告いたします。

木下誠議員でございます。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

武直樹議員でございます。

○武議員

どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

原口悠介議員でございます。

○原口議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

山田正和議員でございます。

○山田議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

続きまして、同じく条例第2項に基づきます関係者のご出席についてご報告いたします。

角谷庄一大阪府議会議員でございます。

○角谷議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

同じく関係者といたしまして、歴代の議長などを務めていただきました皆さまのご出席についてご報告いたします。

田中照章様でございます。

○田中様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

多田龍弘様でございます。

○多田様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

和田友祐様でございます。

○和田様

お願いします。

○森区政推進担当課長

新井光淑様でございます。

○新井様

こんばんは。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

伊藤廣美様でございます。

○伊藤様

よろしくお願いいいたします。

○森区政推進担当課長

なお、船方ひとみ様は少し遅れてご出席いただけると伺っております。

区政会議に関します本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等は公開されます。事務局におきまして会議録を作成いたしまして、後日、区のホームページなどで公開させていただきますほか、会議の様子を収録いたしまして、後日 YouTube において配信し、どなたでも閲覧できるような形にしていまいりますので、録音や撮影につきまして、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、本日の全体会では、先月開催いたしました各部会でいただきましたご意見などにつきまして、共有をしていただきたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。「令和6年度第1回生野区区政会議全体会次第」をご覧ください。

まず資料1といたしまして、事前にお送りしております、「令和5年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）」というA4の資料でございます。次に、参考資料1、2、3としまして、6月に開催いたしました各部会でいただきました「主なご意見等と区の考え方、対応」というA4の資料がございます。なお、今回は各部会で、「区として特にご意見やアドバイスをいただきたいこと」としてご意見を頂戴してまいりました。参考資料1から3の最初のところに枠囲みで記載しておりますのでご確認をお願いいたします。

資料がおそろいでない場合は、お手を挙げていただきましたらお持ちいたします。過不足はございませんでしょうか。ありがとうございます。

それでは、ここからの議事進行につきましては、北口議長にお願いしたいと思います。北口議長、よろしくお願い申し上げます。

○北口（充）委員

皆さん、こんばんは。議長の北口です。ただいまから、令和6年度第1回生野区区政会議全体会を開催します。

それでは、開催にあたりまして、筋原区長からご挨拶をお願いします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。本日はお仕事や家庭のご用事でお忙しい中、また大変お暑い中、生野区区政会議の全体会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆さま方におかれましては、先月開催しました各部会にもご出席いただきまして、令和5年度の取組の振り返りについて貴重なご意見を頂戴したところでございます。本日は各部会の報告をさせていただきます、全体で共有してまいりたいと思っております。

なお、前回の全体会で時間がかかりすぎるのではないかとというご意見を複数いただきましたので、今回、部会での説明と重複するような区役所側の説明は省かせていただきまして、そして皆さん方のご意見をいただく時間をしっかり取りたいと思っております。本日、各部会の報告をさせていただきますので、その部会の報告をお聞きいただきまして、生野区全体の視点からのご意見をいただければと思っております。部会同様に、この全体会におきましても、忌憚のないご意見をいただきまして、より良い区政につなげてまいりたいと考えておりますので、本日はよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

○北口（充）委員

ありがとうございました。

それでは早速、議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に進めていただけるよう、ここからは、学識委員の山納委員に会議の進行をお願いしたいと思っております。

山納委員、よろしく願いいたします。

○山納委員

ご指名いただきました山納でございます。では、始めていきたいと思っております。

次第のほうに、議事1、部会報告とあります。3部会の報告を今からしていただくと思っております。その後、委員の方々、皆さまの意見をお聞きしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

この発表ですが、議事にあるとおり、くらしの安全・安心部会、まちの未来部会、こどもの未来部会の順で、5分ずつぐらいで報告していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

では早速、くらしの安全・安心部会、川中委員のほうよりお願いいたします。

○川中委員

それではご指名いただきましたので、くらしの安全・安心部会の報告をさせていただきます。

今回この部会では、区役所から2つの事柄につき特に意見交換やアドバイスをするようにとテーマをいただきました。

1つ目のテーマが、特殊詐欺の防止に関する方法になります。こちらにつきまして、参考資料1の1ページから2ページにかけて各委員の意見が出ております。詳細はそちらをご覧くださいと思いますけれども、大きく3つの意見が出されたというふうに整理ができるかと思えます。

1つは、広報紙とか区のウェブサイトなどを用いた「空中戦」的な広報だけでなく、より個別に広報していくようなアプローチを考えるべきではないかということでした。具体的には、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリなどの保健福祉や、加えて警察と連携するかたちで、一人ひとりにできるだけ声が届いていく広報を考えるべきではないかということです。

2つ目ですけれども、「特殊詐欺に気をつけましょう」といった抽象的な呼びかけではなく、具体的に何をすればよいのかを指し示す広報をするべきではないかということでした。例えば、電話がかかってきたときに、どのように応答すればよいのかということ、あるいは電話の設定などをどのようにしておけばよいのかといった技術的な対応など、具体的にその方法を示す必要があるのではないかということです。

3つ目ですけれども、やはりこうしたものは、どこか「自分は引っかからない・関係しない」というふうに思われがちですけれども、いつでも誰でもその被害に遭うのだという緊張感をつくる意味で、還付金詐欺の訓練をしてはどうかという意見も出されました。具体的にどういうふうに特殊詐欺がなされていて、どのように自分がそれに引っかかってしまいうるのかを体験的に分かる機会を設定されてはどうかということでした。

この部会では、委員の身の回りで特殊詐欺の危険に遭った方が複数おられましたので、非常にリアリティのある議論ができたのではないかと思います。

2つ目に提示いただいたテーマというのが、3ページ目のところにあります。こちらは、がん検診・特定健診の受診勧奨に関するアイデアについてでした。こちらでも一つひとつの意見は資料をご覧くださいと思いますが、大きくは3つありました。

1つは、特にどういったターゲットに受診勧奨をすべきなのかを定めていく必要があるのではないかということで、どういう世代でどういう働き方をされているのか、どういう母言語や母文化を背景に有しているのかなど、そういうことが分かるようなデータをまず持つべきではないかということでした。その上で、そうしたターゲットに口コミで広げていくことが必要ではないかというのが2つ目が出た意見でした。ただし、口コミは、口コミしたくなるきっかけやツールがないと、なかなか広がらないところがありますので、資料でも出されていますけれども、例えば「健診に行けばこういうものがもらえるよ」といったインセンティブがあるというような話題のきっかけをつくることも併せもって広報

を組み立てていくということなどが必要ではないかということでした。

3つ目ですけれども、がん検診・特定健診を受けてほしい人、その対象者本人に働きかけるだけではなくて、その人の周りにおいて、その人の行動に影響を与えている人々、具体的に部会ではかかりつけ医が例示されていましたけれども、そうした人から推奨してもらうというほうが大事ではないかとの話がありました。受診してほしい本人の周りにはいる人で働きかけるべき対象を明確にすべきではないかということです。

これら2点の区役所から示されたテーマについての意見交換が中心ではありましたが、そのほかの事柄といたしまして、4ページ目に防災に関するものと公園のトイレの整備に関するものが意見として出されております。

ジュニア災害リーダーの育成が始まっておりますけれども、こちらに対して、期待の声とともにそれを拡充・発展させていくためのアイデアや要望などが出されております。

また、コリアタウンや鶴橋駅周辺での公衆トイレの整備が不十分ではないのかとの要望が出されております。こちらも併せてご覧ください。

なお、本部会は今回、防災・防犯、地域福祉という2つの事柄について意見交換をいたしましたけれども、この部会がもう1つ所掌しています人権・多文化共生につきましては、時間の関係で皆さんから意見を伺ったり、議論を進めることができませんでした。次回の部会会議の課題としたいと思います。

以上です。

○山納委員

では続きまして、まちの未来部会から報告をさせていただきます。参考資料2という横の資料がまとめになっております。これをなんとなく上から読んでいくような感じになろうと思います。

区役所からいただいたテーマとして、来年控えている大阪関西万博の開催に向けて、生野区でも様々な取組を行っているが、この大阪関西万博の開催を生野区のまちづくりにどうつなげるのかという話について、意見を聞かせてほしいということでございました。

須郷委員から万博の流れや盛り上がり弱いように感じるとありました。そもそもチケット売れてないよねっていう、盛り上がり欠けてるよね、そのへんから何とかしないとねっていう話に始まりまして、倉本委員から、生野区のことを知っていただくチャンスではあると思うので、このタイミングで何かできたら。若い人がずっと住み続けたいと思えるような橋渡しができればいいのだが、というご意見などをいただきました。

島本委員から、空き家が多い。民泊にどんどん広がっているけれど、外国の人がいっぱいやって来たら、その民泊に泊まってくれるのだろうかということ

あったり、日本の文化と外国の文化が違うので、ごみの出し方などマナーの問題というのもあるということに言及していただいたりしました。

塚本委員から、EXPO いくのヒートアッププロジェクトというプロジェクトが現在、生野区役所のほうで進められていると。そのプロモーション事業に塚本委員も関わっておられると。その盛り上がりを生かしていきたいということをお話しいただいたり。

廣川委員からいただいたのは、生野区にはどれだけ宿泊施設があるのか、その現状を見て戦略を立てていってもいいのではないかということをおっしゃっていただいています。

2 ページ目に進みまして、中村寛子委員から、生野が今のところあまり良いイメージを持たれていない。昔のイメージで、治安が悪い、ちょっと怖いというイメージを持たれているようなので、これを変えていけたらというようなお話をいただきました。

僕からもお話をさせていただいているのですが、空き家の話です。民泊というものの話なのですが、果たして生野に、万博に来た外国の人たちが泊まってくれるのだろうかという話もあるかもしれないし、既にコリアタウンにはすごくいっぱい人がやってきている。年間 200 万人来られているんだそうです。この人たちは、インバウンド抜きで 200 万人と区長もおっしゃっていましたが、それぐらい人が来ると一体何が起きているのか。トイレの問題が起きているのではないかと、ごみの問題が起きているのではないかと。実際万博でドッと人がやってきたときに、対応できる生野区になっているのであろうかということを考えてみる必要があるのではないかとっています。

万博で外国の人が観光客としてやってくるだけではない。既に 79 か国の方が生野区で暮らしているというお話もいただきました。5 人に 1 人が外国の方であると。この生野区に、外国の人がどんどん増えてきたときに、ごみ捨て、習慣の違いなどのもめごとで分断が起きないように考えていかなければいけない。そのためには何ができるのかということであったり、若い人に生野区に住んでもらうためにはどうしたらいいのか、ブランド価値を高めていく、いい住宅環境を用意しないといけないのではないかと話させていただきました。

ここから 2 順目なんですけど、倉本委員から、実際に民泊の多い地域に住んでみると、ごみの問題、騒音の問題というのはやはりある。誰が管理しているのか分からない物件というのもある。その管理者は明確にしていく必要があるということ。逆に、物件を借りる外国の人がそんなにいるのに、物件が借りられない生野区であってはいけない。であれば、どこに相談に行けばいいのか。その相談窓口みたいなものを整えてはいかかかということをお話しいただいたりしています。

島本委員から、子どもに関心を持ちながら見守りをしていくということ。お年寄りについても、声かけやつながりをつけていく、こういう地道なことが大事であろうといただいています。

塚本委員。この外国の方々の話ですが、商店街でお店を出しておられるということもあって、たくさんの外国人がいる、それを受け入れる土壌がある、それが魅力として発信していけたらよいのではないかと、そのコミュニケーションが大事であろうということをおっしゃっていただいています。

廣川委員からは、各国特化型の民泊というのがあっても面白いのではないかと意見をいただいたり。

中村寛子委員からは、夜になると暗い、それが危ない、怖いということにつながっているのではないかと。街灯をつけるとか、門灯をつけるとか、そういう小さな取組を重ねていってはどうとお話をいただいたりしています。

さらに塚本委員からは、若い人、例えば 20 代から 40 代までの男性の集まる場所が一切ない。男性の集まる場所、居場所というものを改めて考えてもいいのではないかと、様々なご意見をいただいております。

以上です。

続きまして、こどもの未来部会からの報告を今井委員よりお願いいたします。

○今井委員

では、6月28日にありました、こどもの未来部会の報告をさせていただきます。先ほど、まちの未来部会では、インバウンドで外国の方が来られているということでしたが、既にたくさんの方が住んでいらっしゃる中で、今回、区役所からいただきましたテーマは、日本語学習支援。外国につながる子どもの日本語学習支援を必要な子どもたちがどんどん増えてきていると。保育所にもたくさんいたり、あと高校とか、そういった中でその人たちに学習支援をするにあたって、どうやっているような連携を進めていったらいいかというアイデアをいただきました。ただ、まずどうやって地域の中で一緒に生活していくかというところで、地域の取組からいろんなアイデアをいただいたということです。

まず1つは、見ていただいたらすごくいろんなアイデアがあるんですが、既に地域の中でお祭りに、日本語学校に通っている外国の方が参加するとか、あるいは子どもたち向けに子ども食堂を開いているとか、そういった中で外国につながるのがある子どもや保護者を孤立させずにつながっていくことが必須だと。根本的なそういったところが出ました。ただ、そのつながるのが難しいと。そのときに私は2つぐらい、委員の皆さまから課題とアイデアをいただいたかなと思っています。

1つが情報提供。どうやったらその外国につながる子どもや保護者に情報が行き渡るか。多言語での情報を地域だけにするのはやはり難しいので、そこを行

政や専門的な団体と連携して行ってほしい、みたいな意見ですとか、あるいは、外国につながる方でキーパーソンになっていらっしゃる方がいるので、そういった人とどうやってつながっていくか、みたいなご意見も出ました。

あともう1つは学校ですね。学校の先生とか校長先生は、やはり子ども、あるいは保護者にたくさん情報を提供できると思うので、学校の中で必要な情報を外国につながる保護者とか子どもにどうやって伝えていったらいいのか、伝えて行ってほしい、そういったご意見も出ました。

もう1つの課題とアイデアですが、相互理解という、まさに一番大事なテーマが出ました。この部会でも文化の違いで、すれ違いがあったりとか、あとマナーですね。マナーが外国につながる子どもとか保護者、若者に伝わっていないんじゃないかというような意見が出たんですが、そもそも、相互理解する機会が少ないんじゃないか、ということで、お互いを知る機会が必要だという意見が出ました。いろいろアイデアをいただいたので、ちょっとご紹介しますが、足立委員からは、地域の中心となる連合町会長さんとか、あるいは地域の活動をされている方々に区役所として区の方針とか、多文化共生のまちづくりのアイデアと一緒に考えてほしい、ということ呼びかけたりですとか、そういったお互いを知るような機会を積極的に作っていったらどうか、というアイデアが出ました。

あともう1つ、永裕委員も、やさしい日本語の取組は全国的に見ても、生野区は進んでいると言いつつ、まだまだ知れ渡っていない区民の方、住民の方、あるいは外国の方々がいらっしゃるの、やさしい日本語をしっかりと学べるような研修があるといいんじゃないか、ということもおっしゃってました。面白いなと思うのが、ステッカーとかバッジがありますよね。ああいうのをもって渡していったらいいんじゃないかと。研修を受けて渡すみたいな。それを外国につながる方々にも一緒に受けてもらうといったこともアイデアとして出ました。

そういったかたちでつながりたいんだけど、情報のバリアがある。あるいは間に入ってくれる人がいないと、なかなか地域としては進めないということで、連携の必要性がうたわれていました。

最後、ほかに区の姿勢に対してもご意見がありました。主に2つだったかと思っております。

1つは学校再編の課題です。学校が再編されて、不登校の数が増えたんじゃないかとか、学校に行くのが遠くなった、あるいは再編されたんだけど校舎が増築工事されていると。そういった中で保護者や住民が不安の声があるということなので、行政としてもそのあたりの課題をしっかりと把握してほしいといった声がありました。

2点目ですが、前回のこどもの未来部会でも出ました、産後ケア、妊産婦さんのケアについても熱心にご意見がありました。助産師の会がされた、生野区に住

んでいらっしゃる子どもが生まれて1年未満の保護者の方へのアンケートの情報も提供いただきまして、産後ケアのシステムが本当に必要な人に届いていないのではないかといったアンケート結果ですとか、授乳についての正しい情報が届いていなくて不安になっているお母さん方がたくさんいらっしゃる、みたいな情報をご紹介いただきました。そういった中で、なかなか難しいんだけど、専門である助産師さんをどういったかたちで生野区に常置できるか、できないか、あるいはそれを補うようなニーズに沿った施策を考えてほしいといったご意見がありました。

こどもの未来部会からは以上です。

○山納委員

ありがとうございました。それでは、今から意見交換の時間とさせていただきます。ただ今は7時29分で、僕のマイクを握っている時間が8時10分までということで、40分ございます。40分でちょうど20名ということは、1人2分くらいの時間があるということでございます。

これまでお話しいただいたテーマでもいいですし、この際、このテーマをぜひ皆さんに共有しておきたいのようなテーマでもいいかと思えます。ご自由にご意見をいただければと思っております。

どっちから行こうかなと思っておりますが、須郷さんから回ささせていただいてよろしいでしょうか。一応、今日はあまり意見を言うことはなしで行こうと思うという、パスは、ありとさせていただきますが、1人2分くらい平均すると時間があるということをお伝えさせていただきます。

お願いいたします。

○須郷委員

はい、須郷です。私はまちの未来部会で参加させていただいております。

前回少しお話をさせていただきましたけれども、私は林寺小学校の跡地にできたアブロードインターナショナルスクール大阪校で地域連携アドバイザーをしております。実は先日の「まちの未来部会」の後に、跡地にできた学校で比較的うまく運営されているということで、アブロードに見学に来られました。港区、西淀川区、住之江区、大正区の区長さんはじめ、関係の課長さんや係長さんとか、生野区役所の方も含めてですけど、総勢で13名の方々がお見えになられて、「どんなふうにやっていますか」など質問攻めにあいましたが、ヌマン事務長と私で対応させていただきました。

アブロードは四ツ橋のビルで学校をやっていて、準備を進めてきて、開校したのが8月の2学期からで、ちょうど1年になろうとしております。いろんな問題がありましたが、地域とアブロードとじっくり真剣にいろいろ話し合いをしながら事を進めてきて、ここまで順調にきております。他の区の方々もそういった

跡地を利用した計画があるようで、スムーズにいい形でやっていけたらということではいろいろな質問を受けましたけれども、アブロードと林寺の取組が、他の区や生野区のほかの地域のところでも何かお役に立てて、それぞれがうまくいっていただければありがたいなど。

そういったことがうまくいけば、今回の部会で話し合った大阪万博にも行ってみようかなという気になれると思うんです。普段の生活がうまくいかない中では、なかなかそういう取組は難しいのかなという気がしております。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

○中村（一）委員

中村です。私は1年前に桃谷駅前商店街でクリニックを開業しまして、もうすぐ1年になるんですけれども、毎日続けてきたことがあって、桃谷駅前商店街の中を、朝ごみ拾いするというのをずっとしているんですけれども、今日の報告を聞いていて、外国人がたくさん増えてきて、ごみがたくさんになるという話がありましたけれども、解決策は簡単なのかなと思ってまして、少なくともここにいる方々が各々ごみ拾いをしたらいいかなというふうに思っています。この1年間続けていますと、最初始めた時よりもやっぱりごみが少なくなっている日とか、私がやる前に誰かがごみ拾いされているんだなというのを気づくことがあって、みんな声をかけ合って、ありがとうとか、助かりますとか言っていたりとか、逆に拾っている人を見て、そういうふうに私も声かけるようになったので、一番簡単なんで時間を決めて、そういうことをしていったら自然にできるようになるかなと思います。

もう一つは外国人のことですけど、今、駅前商店街だとネパールのお店がたくさんありますけど、それ以外のベトナムとか中国とか台湾の方もたくさんおられますけど、その人たちとコミュニケーションをとるということでいうと、単純にその店に行って、ご飯を食べてお話ししに行ったらすぐに仲良くなれるのかなというふうに考えてます。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

○田村委員

田村です。万博の件なんですけれども、私、その万博というのが全く見えません。何を目的というか目標としてされているのが具体的に全く見えないうるか。70年の万博を知っている私としては、未来に対して何かあるのかどうか全く具体的に見えてこない。マスコミからマイナスのイメージばかり植えつ

けられているというのが現状なんで、万博をもう少し盛り上げるとしたら、生野区として民泊の話があるんですけど、民泊を利用して泊まっていた外国の方には、会場に直接行けるバスが出ているとかいうようなかたちで外国の方を受け入れやすくはできないかなとちょっと思いました。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

○玉井委員

玉井です。私のほうとしては、防災に関する件で、これを読ませていただいて、学校のほうでは、校長会や教頭会などと連携していろいろ形づくりをしているということではありますが、実際に災害があったときに、このジュニアリーダーさんがどういう取組をするのか、どのようなことをしたらいいのかということ、もう少し具体的に説明してほしい。それから訓練方法は、消防、警察等が入ってやることになると思うんですが、どういうものややっていくのか、もう少し具体的に説明してほしいと、このように思っております。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

○井筒委員

井筒です。よろしく申し上げます。この前21日ですかね、防災の訓練で初めてジュニアリーダーとお会いしましたけれども、なんか未来が見えたような気がしてすごく嬉しかったです。釜石の奇跡じゃないですけど、若い人の力は絶対要るということがあるので、これからだと思っているので、これからどんどん力を入れていっていただきたいのと、防災訓練をしたときに、学校の鍵を開けるところから大変だったんです。町会長、連長が鍵を開けられないとか、そういうようなこともありましたので、もっと本当の初歩から訓練というか、まめにもっとたくさん訓練をしていただきたいと思えます。

それと外国人に関してなんですけど、私も中国人の友達がいるんですが、その人を中心に外国人のコミュニティが出来上がってしまう前に、そういう関わりたいと思っている外国人を通して、言い方悪いですけど、利用して、その人から発信していただいて、悩みを聞いていただいて、という感じで、地域の中でこういう人がいる、ああいう人がいるということを通じて、それがちゃんと把握して、その人たちを通して、コミュニティが固まる前に皆さんと地域の方と一緒に行動できる、住んでいける、いいまちにしていけるというような形を作っていけたらなど。これは地道な努力なんですけれども、全体でそういうふうを考えていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○山納委員

ありがとうございます。

○藪本委員

くらしの安全・安心部会の藪本です。よろしく申し上げます。

今、井筒さんからお話がありましたが、先日 21 日、日曜日に、まさにこの場で防災訓練が行われました。その中で、被災地、能登に行かれた淀川区の防災リーダーの方のお話がまずありました。それからその後、各地域に分かれて、ジャッキの使い方ですとか、消火器の使い方を教わりました。このときに消防士さんが火災の発生時、周りに火災の発生を知らせるということ、そして初期消火をするということの重要性を話しておられました。その中で言われていたのは、火種は小さいということでした。この言葉が大変印象的でした。それから、最後になりましたけど、災害時のトイレということで、ワンタッチトイレの設営訓練をしました。食事も大変重要なんですけれども、ある意味それよりもっと重要なのがトイレの問題だと思います。そういう意味で言いますと、まだまだワンタッチトイレの備蓄量も少ないでしょうし、便器だけではなくて、便器を覆うテントみたいなものとか、汚物を入れる密閉できる容器なども置かねばならないと思います。そういうようなことで、まだまだトイレ問題、備蓄の量とか質、どちらもまだまだ少ないと思います。これをぜひ充実したものにしたいと思っています。

以上です。

○衣川委員

すみません、生野南の衣川です。

くらしの安全・安心部会なんですけれども、今のところ、これといった意見ではなしに、先ほど言っただけではありません外国人に対する対応、そういうのを生野南のほうはかなり活発にやっていると思うんです。地域の盆踊りにも、公園でやる盆踊りなんですけれども、民謡の人とか、それから婦人部の方が全員の外国の人に着付け、浴衣から全部着せて、それで一応公園で盆踊りはしたんですけれども、そのときの外国の方の喜ぶ顔、すごくよかったですよ。初めて浴衣着せてもらって、着物着せてもらって、盆踊りさせてもらって。

敬老の日なんかにはインドネシアの人がボランティア的に舞台上がって民族舞踊をやってくれたり、こういうのをどんどん進めていったらいいんじゃないかと、それはつくづく思いました。

○長谷川委員

くらしの安全・安心部会の長谷川です。私はどうしてもトイレが近いもので、公園のトイレの問題、非常に関心大なんですけれども、区の対応、考え方、これを見てがっかりしています。天王寺区なんかは、五条公園とか茶臼山公園とかに

立派なトイレがあります。生野区はほんまに情けないです。その代わりに立派な喫煙場所ができたんです。ほんまにびっくりしますわ。私は近所やから、よく見に行くんですけどね。あんまり利用していません。ほんまに持ち腐れです。そんなのに費用かけるんやったら、トイレにどれだけ金がかかるんやと思います。私は定年になってから、生野区、天王寺区をずっと散歩して回っていたんですけど、この頃、だんだん加齢になりまして、トイレが近くなって、航続距離がだんだん短くなってきたので、どうしてもトイレのある場所を探して、東成の東小橋公園とか玉造公園（東小橋北公園）とか、そのあたり。大阪城行ったら立派な公園がいっぱいあります。そういうことで、お願いですから、トイレ、もっと公園、立派な公園いっぱいありますわ。そんなに金かかりません。簡易トイレでも何でもいいんですよ。うちの公園に作ってもらったら、町会で掃除しますわ。それぐらいの気概ですので、是非ご検討のほどお願いします。

○川中委員

先ほどの衣川委員のご発言とも少し関係しますけれども、外国人住民の方々や、外国につながる子どもたちや若者たちについて、その一人ひとりの持ち味や力が生かされて活躍する場を整えていく視点もとても大事ではないかと思います。そうした活躍の場で地域の人と交わっていくことで、地域の人たちも出身国の地域の文化や習慣の理解が深まり、お互いの理解の歩み寄りにもつながっていくのかと思いました。

私は、EXPO いくのヒートアッププロジェクトの詳細は把握しておりませんが、例えばそういうところで、市民参加提案型のプロジェクトキャンペーンを張って、外国ルーツの市民の方にも積極的に「皆さんができることをいろいろ提案してください」といった呼びかけを行っていくということもあるのかと思います。特に生野区の場合は外国に背景を持たれている方が多いわけですから、「こんなにいろいろな国や地域の文化のプロジェクトやキャンペーンというのが市民から提案されているんだ」とプレゼンテーションしていくということもありえるかと思いました。

以上です。

○今井委員

先ほどから何度か出ていると思うんですが、さっきの衣川委員もおっしゃられた、恐らく地域で外国の方と色々な住民同士が交わっている、グッドプラクティス（良い事例）って結構たくさんあるような気がするんですね。そういうのを共有して、共有財産みたいな形で、行政なのか誰なのか分からないですが、ストックして、こういう取組をしたって人に、こんなあったよってことを紹介したりとか、そういうことができる可視化して、それがまた共有できる財産になっていくのかなというふうに思いました。

もう1つは万博と防災と多文化共生って全部つながっているような気がするんですね。万博でたくさん来られたときに、じゃあそのときに何か災害があったときにどうするの。そのときに多文化でしっかり情報が出されているのかとか、あるいは多文化なハラールフードがどこにあるのかとか、そういうのを生野だったら既にもう住んでらっしゃる方がたくさんいるので、その人たちと一緒にマップを作るとか。そういうふうに資源があるのを活用できないかっていうことを3部会そろったので思いました。

○北口（充）委員

くらしの安全・安心部会から防災についてお話しします。

ジュニア災害リーダーの育成で昨年度が18名、今年度は中学校8校、全校から38名ということで、ほぼ倍の数を登録していただいているみたいですが、より一層の増員ですね。それと中学生においても防災等のことでまたいろいろ経験して力添えになっていただけたらと思います。

それに関しまして、生野区災害時協力事業所・店舗等の登録団体が、去年は22件で、今年度また増えればいいなと思うんですが、それをまたご近所、近隣の方にお分かりいただくような看板といいますか、表札といいますか、このような事業所だということをご近所にも分かるような方法をしていただければ、我々もまたそちらの事業所さんとの話し合いなり、何なりとまた進めていけるかと思えます。

以上です。

○中村（寛）委員

こんばんは。まちの未来部会に参加をさせていただきまして、それまで周りで聞いていた、生野区ってこんなふうに思われているというようなことを一応、意見・アドバイスというところに載せていただいているんですけども。部会の中の話でも少しありましたが、60数か国の方が住んでいるというのがもう70数か国ということで、いろんな国の方がたくさん増えているというのは、まちの中を歩いていても感じるころではあります。学校などにも親御さんも、子ども自体も日本語があまり分からない、理解できないまま、公立の学校に入ってきているという家庭もたくさん出てきているようなので、そのへんの対策など、行政のほうで考えていただけることがあればお願いしたいのと、私たちに何か協力ができることがありましたら、また相談していただけたらなというふうに思えます。

地域のほうでは、先ほどからもたくさん出ています防災などについてなんですが、住まいは田島でございます。田島と生野南で田島南小学校、小中一貫校ということになっていまして、今まで中学校の校舎で小中一貫になっているんですけども、中学校で主催し、場所を使わせていただいて、生野南さんと田島と一緒に防災訓練というのはできていたのに、小中一貫になったからあるのかな

と思ったら、それがなかなかできないということを連合の会長さんから聞いたことがありました。小学校の跡地、小学校の場所はあるので、そちらで田島だけで防災訓練ということもしているんですけども、先ほどから話題に出ています中学生の災害リーダーさん、田島にもいてはるのかなと思うんですけども、まだお会いしておりませんし。38名と、今北口議長からもお聞きしました。とても頼もしいかなと思うんですけども、以前から各中学校で防災訓練も、やっぱり中学生の力って大事だなということは、ずっと言ってきたことなので、もっと地域と密に連携を取りながら、私たちも入っていきながら、うまくそういう活動が訓練も含めてできていったらいいなと思います。

まちの未来部会のときにもちょっとお話ししたんですけども、今里筋とか、勝山通の建物が低くて、空がよく見えて気持ちがいいのはいいんですけども、ちょっと外灯ばかりが目立って暗いイメージになっているので、一本筋入れば真っ暗なところが結構多いので、少し外灯をつけて、人のために外灯をつけるという習慣みたいなことを癖づけていけるような取組ができればなと思いましたので、ご提案させていただきました。

以上です。

○森口委員

くらしの安心・安全部会の森口です。よろしくお願ひします。内容は皆さん言われていますので、ちょっと別のことを質問させていただきます。4つほどありますが。

まず、前回の全体会で僕ちょっと2点ほど質問しました。まず1つは、若い担い手が不足している。特に青少年指導員はじめ青少年福祉委員とか、いろんな地域で活躍する若年層がなかなか集まらない。それが僕はまち協の組織そのものが弊害になっているんじゃないかというふうに1つ質問させていただきました。そのことについて、それからの何か動きがありましたらお答えいただきたいのと、近鉄の鶴橋駅、私は北鶴橋の地域推薦ですから質問させていただきましたけれども、鶴橋駅の東改札口付近がまだ鉄板で囲まれたままなんですけれども、どうにかきれいにならないかということを質問させていただいたので、その進捗状況を教えていただければありがたいです。

それから、今回の質問でも出ているんですけども、多文化共生というのは大変僕も理解します。でも、肝心の日本人というか、日本の若い方でもいいですし、家族、そういった方の転入を増やしていく。少子高齢化と言われればそれまでですけれども、やっぱりそこにも魅力がないと、外国の方ばかりが増えてきて、先ほどからごみやいろんな問題が出てますけれども、これも10年ぐらいやってる話で、いつまで経ってもこんな状況です。ですから、やっぱり若い日本の方も増やしていくというところの取組はどんなふうにされてますかということです。

それから3番目、区全体に関わるプロポーザルの入札案件について、応募者が1社というものが結構あります。それは随意契約と同じじゃないかということ。それからそういう場合、いわゆる1社しか来ないという入札の内容の改めて精査はしていないのか。また、区内の会社なのか団体なのかがあるんですけども、いくつかの入札を確定させているけれども、そのまま入札案件内容の履行の具合のチェックはできているのか。例えば資本力であったり、どれだけの規模の対応ができるのかも含めて、入札の金額、それから点数というのもよく分かるんですけども、やはり原資は税金ですから、その入札されたところの一部の関係者だけが有益となって、区民全体に効果があるような内容になっているかという入札内容の履行のチェックはしていけるのか。それから、入札業者が少ないように僕は思うんですけども、それは1つに、生野区の魅力がないのではないか。それからまた逆に、その行政から出している入札内容が非常に難しいのではないか。例えば、パッと皆さんがホームページを見れば分かりますけれども、言葉ばかりですよ。ああいう言葉だけというのは、結局はどこかここに落としてもらえたらいいな、みたいな感じで書かれているんじゃないか。もっといろんなところが幅広く、この生野区のことを思って、外からたくさんの方が入札して、いろんな風を吹き込んでいっていただくのが、もっともっとまちの活性化になると思うので、入札内容が難しすぎて、敬遠されているのではないかということです。

以上です。

○山納委員

はい、ありがとうございます。では質問に関しては、最後にまとめて整理して答えていただこうと思います。安さんお願いいたします。

○安委員

こどもの未来部会の安といいます。今回、区政委員にならせていただいて生野ってどうなんやろうというので、いろいろ調べたりするんですけども、2040年、人口10万人を切ると言われています。1970年に万博、中1でリピーターで何回も行ったので、あの頃の時代は20万人を超えていました。中学校は今、数クラス、3クラスがやっこさの学校が多いんですけど、大池中学校は7クラスありました。

この状況で、合計特殊出生率は大阪市平均が1.37で、生野区は1.19。大体人数にすると800人ぐらいになっていると聞いています。こどもの未来部会の中で僕が言ったのは、少子高齢化の問題をどう解決するかと言ったときに、問題は2つしかないんじゃないかなと。

1つは、さっき森口議員がおっしゃったように、若い人たちにとって魅力あるまちになってもらうというのが1つと、もう1つは、やっぱり多文化共生という

のがあると思うんですね。

今回の資料を見ますと、スローガンが3つありまして、そのうちの1つが多文化共生、2つ目は子育て、教育の整備。もう1つは、経済活性化かな。3つあるんですけど、その中で僕はやっぱり、特に最初に言った1、2点目を大事にせなあかんのちゃうかなと思っています。

1つ目に関して言うと、こどもの未来部会の中で僕が言いましたように、1.19というのは、高齢化率が今確か2番目ですね。15歳未満人口が、20位かいうぐらいになってて、大阪市の中でもものすごく少子高齢化の課題を抱えているまちなんで、そこを突破していかなあかんと思うんですよね。そういう意味で、こどもの未来部会のときに僕が言ったのは、1にも2にも、やっぱり子育て支援をするためにも、予算的な問題もありますけど、何とか助産師を常置してもらえないかいうことは話させていただきました。

もう1点、多文化共生については、今回4月からですか、多文化共生調査事業が始まりますけど、要は、彼らにいかに寄り添うかなんですよね。中村委員がおっしゃったように、最近僕もネパール料理の店に行くんですけど、ネパールや、スイスから来ましたとかね、結構しゃべってくるんですよね。やっぱりちゃんと付き合っていかなあかん人たちなんですよね。今、70数か国になっています。特に今ネパール人が増えています。桃谷商店街にはネパール料理の店が増えているし、食材店も出ているし、商店街出ると住宅街にもネパール料理の店ができています。彼らとどう付き合っていくかというのを、本当に真剣に考えなあかん時期なんで、是非ともその調査事業だけじゃなくて、僕が思ってるのは、話ちょっと切りますけど、大田区に行ったときに、キャノンがあるんですね。そこには多文化共生推進課があるんですよ。いくのパークに多文化共生の拠点を作るって民間でやってるけど、そうじゃなくて、行政側からちゃんと手を握り合う、多文化共生センター、多文化共生推進課みたいなものを作れないかなと。70数か国というんやったら、大阪市が特区的に生野区を、西成が特区でやろういうように、生野区も特区的に多文化共生を標榜して、多文化共生推進課を作ってくればいいじゃないですかと、僕はそういうふうに思っています。

この2点を解決しない以上は、2040年には10万人を確実に切るというふうに僕は感じているので、そういった危機感をともにほかの住民の代表者の委員さんと一緒に持っていきたいなと思っています。

以上です。

○山納委員

では、足立委員、お願いします。

○足立委員

こどもの未来部会の足立です。

まず1点目ですけど、私のほうで質問させてもらった意見のところの、区の考え方ということで、未来学園の校舎の工事の話を回答いただいているんですけど、そもそも35人学級が編制基準になったから、読めなかったということ自体が問題ではないかと。35人学級というのは国の方針だし、未来学園については、やっぱり非常に保護者の関心も高く、学校選択制の枠組みを利用して、地元、いわゆる校区の学校ではなく未来学園に行きたいという希望が事前に多かったと思うし、私のほうで聞いていても、やっぱり未来学園に行きたいという保護者の人が多かったというようなことも含めて言えば、やっぱりその事前の調査なりが甘かったのではないかと。人数が増えたから仕方がないですという回答にはちょっと残念です。

これだけではなくて、アンケートも取ったとおっしゃってるけど、具体的にどのような調査をされてるのかなと。保護者の方たちは非常に具体的に、例えば工事のために車椅子が通れないとか、登校の時にこんなことがあって不登校になったり、具体的に自分とこの家族の物語を皆さん語られてるんですが、果たしてそういう声が区役所なり学校側に届いてるのかなというのが、甚だ疑問で、それが不登校が増えたりしている原因ではないかと私は思うのですが、ここは分からないので。

それから、大阪市全体で不登校がやっぱりすごく多いということで、民間のほうで調査しようかという動きがあるので、生野区のほうにも調査入るんちがうかと思いますが、やっぱりここは主体的に区として、学校選択制の課題というのをきちっと出してもらって、課題があればこんなふうにやりますと言えば保護者の方も安心すると思うので、現実問題として校舎の建設するのは仕方がないにせよ、今後そういうことがないようにということが必要なんちがうかなと思います。

それからもう1つの子育て支援の助産師さんの件なんですけれども、ここには助産師を雇い上げる予定はありませんとはっきり書かれています、これはどういうことなのかと思います。この間の会議については、当事者のお母さんたちの具体的な声というのが上がってきていた。それを読んでもこういう回答しか出せないということは、一体どう考えているのかなと。

それとやっぱり子育てのことというと、多文化の保護者の人たちはすごい立派なリーフレットとか、これ読んだら分かりますってこの間おっしゃっていたけど、読まれへんから。だからやっぱり寄り添う。ただし、今まで私らの子どものおときは保健師さんも多かったけど、今は少ないので、保健師さんはほんまに高齢者のところで回っているの、子育てのおときは定期の何歳時健診とか、よくやってはると思います。私も福祉コーディネーターやってるけど、ただやっぱり足りない部分を、この助産師さんたちが声を上げてもらうので、やっぱりここを活用

しないという手はないんじゃないかなというふうに思っています。既に制度を入れている区があるように聞いているので、予算のことについてはやっぱり検討してほしいなと思っています。

それからもう1つ、昨年度、ヘイトスピーチが私の近くの学校であったんですが、最近メディアで取り上げられて、皆さん周知されることになったんですが、これの対応が本当にひどくて、地元なので、そのときの様子は分かっている、学校の対応とか教育委員会の対応が本当に悪くて。区役所に相談させてもらったら、区役所なりには精一杯対応してもらって、子どもたちの安全を守るということで、今もやっていただいていることは私は承知しているのですが、やっぱりこのヘイトスピーチは、北鶴とか御幸森とか、あのあたりの方は聞いたことがあると思いますが、街宣車とかがものすごく増えて、警察に連絡したこともあるんですけども、観光客があんだけ来ているところに、すごい街宣車で在日コリアンに対して、ヘイトをやるということに対して、私はしばらく追いかけていたんですけども、警察が来るわけでもなく、区役所が来るわけでもなく、そういうのも、やっぱりきちとした対応を行政としてはとってほしいな。それからヘイトスピーチをした人がレイシストなんか、地元の人なんかはちょっとはつきり分からないんだけど、もし地元の人であるならば、これはゆゆしき問題で、やっぱり人権啓発の部分については、区全体として、町会とか地域としても取り組んでいかないかなのちやうかと。このヘイトスピーチがあったときには、学校からの連絡が地域に一切なかったのも、これはちょっといかなものかなというふうに思っています。

同時にコンビニとかでも結構ヘイトスピーチというか、働いている人同士で差別的な発言があって、日本語もうまくしゃべれないから泣き寝入りとか、結局辞めていくという事例が実際私見聞きしていて、コンビニの会社のほうも働き手が多文化の人たちに働いてもらわないと回らない状況なので、対策は練ってはるんですけども、やっぱりカスタマーハラスメントがあり、そういうコンビニやいろんところで働いている外国人に対してのまちの人たちの対応というのも、いかなものかと思う場合も聞いているので、そういうことも含めて主体的に、このヘイトスピーチとかについては対策をとってほしいなと思います。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。福田委員お願いします。

○福田委員

福田です。外国の方が身近な立場に、ごく近所で住んでおられる方もおれば、小学校、中学校に生徒で通われている方、また日本語学校に日本語を学びに来られている生徒さん、技術職で技術を学びに来ている働かされている方、またその技

術職の研修も終わって、実際に生野区、工場が多いので、働かされている方もすごく多いですね。特にこれから、生野区だけの問題じゃないですけど、少子高齢化で年老いた人が増えていきます。当然病院や介護職、24時間いろんな場面で外国の方の手助けが必要になってくると思うんですね。

先日は私、郵便局で順番待ちしているときに、私の前の方が一人で来られていて、ある程度日本語がしゃべれる方だったんですけど、働いたお金を祖国に送りたいと。その準備をしているんですけど、郵便局員の方と一生懸命お話をして、介護の仕事で給料が入ったので、口座をつくって、送金をしたいと。私もちょっと聞いていたんですけど、実際は送れなかったみたいだったんですけど、いろいろと私たちは外国の人に都合のいいところだけ手助けを求めて、でも、生野区であったり日本で働かされている皆さんに、何かそんだけちゃんとお返しする準備ができていのかなと思ったら、まだまだ私たち生野区のまちはそんなに住みよくないし、外国の方に優しいまちじゃないのかなと思う部分が、そこで私は感じたんですね。これから5年後、10年後、もっと外国の人が身近になり、もっと助けを私たちが求めているのに、その準備をもっと私たちもこれから行政と一緒に進めていかないと、逆に失礼だなと思いますし、それは皆さんと一緒に考えていきたいなと思っています。

以上です。

○山納委員

北口委員、お願いします。

○北口（英）委員

こんばんは。こどもの未来部会の北口でございます。皆さん、固い話ばかりで、僕はちょっと砕けた話しかできませんけれども。

今月の13、14、15と巽神社で夏祭りがございました。私は矢柄というところに所属しておるんですけども、ご多分に漏れず、とんでもない高齢化ととんでもない少子化で、毎年毎年、村が小さくなっていくなということを実感している昨今なんです。その中においても、少ないながらも子どもは何人かは来てくれるし、また最近では若い子たちも、友だちを伝えてというのもあるんでしょうけれども、来てくれるようになってきました。ただその若い子たち、20歳から30歳くらいの子たちが、私のこの旧村、二町会というところなんですけれども、そこで定着してくれるかといったら、なかなか今度、家問題ですね。長屋とか大分空いてきたんですけども、ただその若い子たちが長屋に入れるかといったら、昔ながらの使いにくいところってなかなか入れない。入れないというか、言葉は悪いですけども、見てくれ悪いから、マンションみたいなのがいいので、なかなか来てくれない。だんだん町の風景も若干変わってきているんですが、新しい、例えばマンションじゃないけど、そういうのが建つと入ってはくるんやけども、

今度は新築は高いからなかなか入れないという。そういう状況が続いているので、ある意味、もう一回りせんとこの村の形はもうちょっと変わっていかないのかなとは思いつつ、何か良い方法がないかなというふうなことを日々考えている次第です。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。加藤委員、お願いします。

○加藤委員

こどもの未来部会の加藤です。学校再編した、未来学園の前の疎開道路が、学校としては通学路ではないと決定しているみたいですね。正門の広い道が。なんでもそこが。車の通行量は多いし、歩道がないんですわね、縁石で。やっとな疎開道路の西側だけが、ポールにやっどこき変わったんですけどね。それでもあれは学校が通学路でないから言うて、工事が大分遅れていたんです。最初、教育委員会が予算を取って、ポールを建てるという話ができかけてて、学校のほうは、あそこは通学路ではありませんと言って、一旦消えて。地域で、もう1回役所に頼んで、何とかできたんですけどね。今、工事で児童が増えてきたら、もっとあそこ通るし、今度、疎開道路の向こうの猫間川がまた細い道で、ある程度交通量もありますからね。そういうので、こどもの通学路の安全対策をもっとやってほしいなと思います。

○西村委員

こどもの未来部会の西村と申します。よろしくお願いいいたします。今日はいろいろな部会のお話を聞かせていただいて、とても参考になりました。

私も騙されやすいほうなんで、特殊詐欺にも引っかかったりしたので、またお話しする機会があればさせてもらいたいなと思いますけど。ちょっといくつか、こどもの未来部会に所属しておりますので。

まず1つ目ですけども、今も加藤さん、それからいろいろな方からお話がありましたけど、学校の再編に関してなんですけれども。私も未来学園に所属する地域なんですけども、今、いろいろな方をお願いして話し合いをしておりますけれども、通学路が変わったがゆえに今里筋、生野の大動脈かと思うんですけど、今里筋の生野消防署の前の渡ったらいけないところを低学年の子どもたちが渡ってしまっている。それも大人たちが渡っているから、その姿を見て。人間、自転車、バイク、自動車、1日に大体5、600から1,000人、台近い人たちが渡っています。それを見て、子どもたちは今までは通学路じゃなかったもので、そういうことはなかったんですけども、消防署の前を通過して学校に行くというルートが変わったので、保護者の目が届かないところでは、小さい子どもたちが渡ったりして、とてもヒヤッとしているんですけど。調べていただいたところによる

と、西消防署とか大正消防署の前では、そういう中央分離帯に自動でロープが上がつたりするようなシステムもあるそうなので、そういうこともできないかも含めて、今、検討をお願いしているところなんですけれども。そういう大人の都合で変わったことは何とかしてほしいなと思っております。

あまりにも遠い、うちは舍利寺地区の、今里筋を越えた田島のほうなので、この異常な暑さの中で不要不急の外出はあかんとすると、子どもたちは大事な学校に行くので、先週も2時半ごろに真っ赤な顔をして2年生、3年生の子が、本当に修行のように重いランドセルを負って帰ってきていました。最後にまた歩道橋渡るということになるので無理もないのかなと思うところもあるんですけども、今からでも遠方のところはオンデマンドバスか何かを活用しながら、そういう夏の暑い間、冬の寒い間だけでもそういうことできないのかなんて思ったりしております。

それから、これも安さんと足立さんからもありましたけども、産後ケアのために保健師とか助産師をもっと増やしていただきたいなと思っております。

それから、うちの町会で先月起こったことなんですけれども、孤独死がありました。それまで騒音問題の発生元だった一人住まいの方が、全然物音もしないな、一月以上物音もしないなということで、私のほうで消防に電話させていただいて、レスキューが来られたら2階で亡くなっていたというふうなことがありました。身寄りもない一人住まいの方だったんですけども、その後どうなるのかなと思っていたら、今日また近所の方から水漏れがしているということで連絡があったので、今日もいろいろと動いたんですけども、その家はまだ一月前まで人が住んでいらっしやったので、そんなに危険なボロボロの家じゃないから対応がしにくいというようなところで、廃屋になって壊れかけてレスキューが来ていただいて対応していただくのではなくて、もっと早めの対応をしていただけないかなというのを今日感じました。

それから、これもうちの町会のことなんですけども、今年から赤ちゃん誕生、それから子どもの小学校、中学校入学のお祝いをするという制度を設けまして、回覧を回したところ、お1人だけうちの子どもが小学校に入ったのでという電話をいただきました。それはベトナムのご夫妻のお母さんが電話をかけてこられまして、後にも先にも自分で電話してこられたのはその方だけだったんですけども。ほかの役員さんと一緒に5,000円持ってお祝いに行ってきました。話をしていると、そのベトナムの方は、ベトナムの技能実習生とかをベトナムから日本に紹介する会社の事務員をされているということで、すごく日本語も堪能だったんですけども、そういう方が町会におられたり、うちの町会の工場なんかでも半分以上ベトナムの方がおられたりするところもあるんですけども、そういう人たちといろんなコミュニケーションをとってやりとりを、ほかの人たち

と同じ、それ以上に手をかけながらやっていきたいと思っております。

それから最後になりますけれども、私も4月、5月と能登の仮設住宅をずっと回るボランティアに行ってきました。今、輪島のほうでも災害関連死の孤独死というのが発生していますけれども、やっぱり強く感じたのは、そしてまた我々がボランティアでやっていたのは、関係づくりということですね。それはこの震災の仮設だけじゃなくて、我々の身近な生活においても関係性が少なくなっていることがいろいろな問題を生じているんじゃないかなと思っております。行政、連合はじめ、いろんな関係づくりをやっているかとは思いますが、もっともっといろんな角度からそういうことをやっていく必要性を強く感じております。

長々となりましたが、以上です。

○山納委員

はい、ありがとうございます。20名、パスされる方はおられませんでしたね。軽く予定の時間を10分ほどオーバーしておりますけれども、いくつか質問がありました。区役所の方から答えていただいてよろしいでしょうか。

○山東教育委員会事務局学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長

教育委員会事務局学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長の山東でございます。

学校再編に伴いまして、通学路の安全対策のご質問・ご意見があったかと思えます。学校再編に伴う通学路の安全対策につきましては、対象校の保護者、地域の方々、学校、生野区役所、教育委員会事務局で構成します学校適正配置検討会議におきまして、開校にあたって新しい通学路にどのような安全対策が必要なのかご意見を伺って、実現可能な安全対策を検討して、生野未来学園、田島南小、大池小も含めて通学路の安全対策を道路管理者、また交通管理者とも連携して講じたところでございます。

加藤委員からご質問があったんですけれども、疎開道路のところがなぜ通学路ではないのかということですが、先ほどおっしゃっていただいたと思うんですが、歩道ではないというところで、きちんとガードレール等の安全対策が講じられるのかという調査をしたところ、水道管や下水管があってガードレールの杭を打ち込めないということが分かりました。そういった状態では歩道ではないということで、学校、保護者、地域の方も含めて、疎開道路は通学路として認定はできないということになった次第でございます。

また、もと舍利寺小学校区において、通学路の安全対策についてご意見がございました。開校後につきましては、大阪市の通学路安全プログラムに則って、どういった安全対策ができるか、区役所において検討していきたいと思っております。

ので、よろしく願いいたします。

○木村地域まちづくり課長

地域まちづくり課長木村でございます。

森口委員からご指摘いただきました、地域活動における若い担い手の不足についてのご質問について、回答させていただきたいと思います。1月にあった前回の全体会で森口委員よりご指摘をいただいたところでございます。

連合町会長がお集まりいただく会議の場を借りて月に1回、行政関係の情報共有というかたちで会議をやらせていただいておりますけれども、その2月の連合町会長会の場の後において、連合町会長の方、大体地域のまちづくり協議会の理事長を兼任していただいているところが多いので、案件があれば理事長会も同時に実施するんですけれども、そういったまちづくり協議会の理事長会におきまして、担い手の不足についてご協力を賜るというかたちで担い手の掘り起こしをお願いしておったところでございます。また、まちづくり協議会の参画団体がまず取組においてしっかり参画していることが見えるような取組についてもお願いしております。同時に多様な主体が参加することが望ましい、まちづくり協議会の仕組みについても改めてご説明させていただいたところでございます。

また、3月の連長会におきましても、青少年指導員、青少年福祉委員の2年に1回、改選が起こるんですけれども、令和6年4月から追加推薦という形を取らせていただくことをご説明いたしました。結果、各地域からご協力をいただきまして青少年指導員5名、青少年福祉委員1名を追加推薦いただきました。少しずつではありますが、町会の皆さまのご協力をいただきまして、担い手の不足の解消に向けてご努力いただいているところでございます。ある地域におきましては、3名の青少年指導員を増やしていただき、大分担い手の不足が解消されているところですので、引き続きそういった取組を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○筋原区長

区長の筋原です。

近鉄の鶴橋駅東口の有効活用についてでございますけれども、おっしゃるとおり、近鉄の鶴橋駅東口の高架下のところが今、白い塀で囲われて長年活用されていない状況にあります。これが非常にもったいなくてですね。近鉄さんのほうに働きかけということで、私自身もいろいろなルートで探しておりましたところ、東住吉区は、矢田の開発で近鉄さんのほうと連携協定を結んで、今、取り組んでおられますので、生野区も同じように連携協定を結んで、具体的にこの東口の高架下のところの活用を進めることができないかということで、今アプロー

チをしようとしているところです。

やはりそれには、この生野区の活性化のビジョンというのを明確に近鉄側にもお示しをして進めていく必要がありますので、正式な地域別の活性化ビジョンというのは、これからぜひ作っていきたいと思うんですけども、正式に調整して作って、パブリックコメントを経てということになると1年以上かかってしまうので、それでは万博も控えている中、ちょっとスピード感として遅いと思いますので、今 EXPO いくのヒートアッププロジェクトでも秋までに100の取組を、実際に盛り上げる取組を掘り起こすということをやっております、実際にこれも100いきそうなんですけれども、その中には、鶴橋駅東口周辺でいろいろな取組をされている方々も入っておられて、そういう動きを整理して取りまとめまして、それで鶴橋、またその周辺の活性化の基本方針、方向性みたいなものを至急取りまとめて、そして近鉄さんと連携協定を結んで、具体的に東口のところの高架下の開発を進めるべく、全力で取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○大川企画総務課長

企画総務課長大川です。私も同じく森口委員からございました、公募型プロポーザルの入札案件に関わりましてご説明いたします。

まず一般的なことから言いますと、行政の入札の方式としまして、大きく3つございます。まず1つ目が一般競争入札。これは単純に価格の競争によるものです。2つ目が指名競争入札ということで、特定の事業に関わって企業数社を指名して価格競争によるもの。それともう1つが随意契約というもの。大きく言うとこの3種類になります。随意契約の中でも種類がございまして、1社しか例えば販売していないもの、日本全国探してもその会社しか製造していないものを購入する場合ですとか、緊急性のある場合、例えば何か災害が起こった、何かトラブルがあった、緊急に対応が必要な場合。あと今回の公募型プロポーザル方式による入札、これも随意契約の種類に当たります。公募型プロポーザル方式といいますのが、これも一般論で申し上げますと、高度で専門的な技術力が求められるような内容ですとか、価格のみ、要は金額のみによる入札が適当でないといった場合、そういった場合に最も優れた提案の内容を採用すると。単純に価格ではなくて、優れた提案内容によって採用するというものになっております。

昨年度、令和5年度で言いますと、生野区で公募型プロポーザル方式による入札を行ったのが10件ございまして、今年度が11件ございます。あくまでもこの随意契約の1つであります。公募型プロポーザル方式による入札を行ったものにつきましては、全て履行確認をした上で最終チェックしているということになります。

応札業者、例えば1社入札が多いんじゃないかというご質問がございましたけれども、先ほど申し上げましたように、専門的な能力が必要であったりですか、単純な価格競争が適さないということで、非常にどこでも応札いただけるような内容ではないというものですとか、例えば、具体例で申し上げますと、公園の維持管理、そういったものを公募してやらせていただいているものとかもございまして。そういった関連でいきますと、実際、応札事業者と申しますか、応札いただけるところが少なくなるという場合もございまして、応札業者が少ないのは生野区に魅力がないとか、そういったことでは決してございません。そういうふうにご理解しております。

ただ、実際に、いろんな優秀な提案が出てくるのを我々としても期待はしておりますけれども、それだけに内容的にも難しいものも多いというのが実態となっているところではございます。

ちょっと一般論になって申し訳ないのですが、以上です。

○山崎安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の山崎です。多くの委員の方からいろいろお話しただきました中学生の災害リーダー（JDL）の件についてお話しさせていただきます。

玉井委員から、お子さんに具体的にいろいろ説明してほしいという意見や、井筒委員から、力を入れてほしいというお話、それから北口委員からも、いろいろなことを経験させてあげてほしいというご意見をいただきました。本当にありがとうございます。

中学生ということなので、部活動や塾など、なかなか忙しい中で来ていただくのも難しいということで、最初のうちは強制しすぎて嫌になってもいけないのかなと思っておりまして、割と緩めにしているようなところがあるのは事実です。

先ほどからもお話がありましたように、21日と28日に、地域で防災リーダーになっていただいている方にいろいろと学んでもらう場ということで研修を設定させていただいております。ジュニア災害リーダーの方に関しても、21・28日両日あるので、「もし来れるようだったら来てね」という声かけをさせていただいております。この前の21日も5、6名来ていただいて、一緒に話を聞いてもらったということです。子どもたちも具体的にジャッキアップして人を救出する訓練とかをやった楽しかったと、非常に喜んで帰っていただいたところです。やはり中学生ということで、日中に災害が起こったときにも非常に力になってくれる方もたくさんいるかなと思っております。一人のお子さんがいろいろな知識を吸収することによって、それを周りの子にも伝えていただけるという部分もあると思っております。我々としては、その人数も増えていくように、い

ろいろなことも経験させてあげられるように取り組んでまいりたいと思っておりますので、またいろいろご意見がありましたらお伝えいただけたらと思っております。

それから、北口委員からございました災害時協力事業所についてでございます。こちらは現在 22 の事業者に協力ということでお話しいただいているところなんですけれども、もう 1 社話をしておりまして、増えそうかなというところで、今調整を進めているところです。区のホームページでは、どこの事業者さんがなっているのか見られるようにはなっているんですけれども、先ほどもお話しただきましたように、近所の方からも見られるような形で何かできないのかなということも、ちょっと検討させていただきたいと思っております。

それから、西村委員からございました話で、生野消防署前のところで通学路が変わったことでお子さんも歩いているという件に関しましては、区役所も一緒になりまして、生野警察さんや生野消防署さんにお声がけさせていただいて、地域の方とお話しさせていただく場も設定させていただいているところでございます。今現在、消防署、警察、区役所においてもどういうことができるのか検討させていただいております。また持ち寄って来月話をしようかとさせていただいているところです。どのへんのことまでできるかというのは、今の時点で何ともお答えできないのですが、ただ、地域の方にも聞いていますと、大人の方も広い今里筋を横切ってしまうと。あそこは消防署の前なので、救急車や消防車、緊急車両が急いで出ていかなくはいけないということもありますので、中央分離帯がない形になっております。その関係もあって、横断されているところもありまして、大人が横断しているのをご覧になって、お子さんもやっている部分もなきにしもあらずなのかなと思います。やっぱりお子さんがそういうふうに渡ることがあったら危ないので、何らかできないか、引き続き区役所も間に入って話していきたいと思っておりますけれども、地域のほうでも、くれぐれもそのようなお子さんに危ないところを見せないようお願いしたいと思っております。

それから、空き家で孤独死があったというお話がありました。今日は西村委員からもご相談いただいたところなんですけれども、そもそも空き家ということで、私人の財産に関して、それを改善とかというかたちで危ないものに関していろいろと行政のほうで権限を与えられているところです。今回の場合、入居されておられた方がお亡くなりになったということで、私有財産になりますので、その財産関係も調べていかないといけないところはあるんですけれども、そのまま放置すると危ないというものではない場合については、個人情報等の壁もございまして、なかなか調査が進まないという部分もございまして、おっしゃっているように、このまま放置して何年も経ったら危ない状態になるということも十分認識しておるところですけれども、一定限界があるということもございまして

で、またいろいろと連携を密にさせていただきながら、とは思っているんですけども、ご理解いただきたい部分もあるということだけお話しさせていただきます。

すみません、長々と失礼します。

○山納委員

はい、ありがとうございます。そんなところでしょうかね。ということでちょっと長くなったんですが、これも市民自治の貴重な現場でございます。こういうことを言える、こういうことに答えてもらえる貴重な時間とさせていただきました。ありがとうございます。ということで、北口議長にマイクを戻したいと思えます。

○北口（充）委員

山納委員、ありがとうございます。それでは最後になりましたが、本日、関係者としてご出席いただいております歴代の議長などを務められました皆さま、もしご意見があるようでしたら、挙手の上、お願いいたします。

○多田様

地域振興会の会長をしております多田です。町会のほうの観点からちょっと申し上げて。

多文化共生の中で現在外国籍の方が多く地域でおられます。特にインド系の方がたくさんおられて、我々もちょうど彼らが地域に入ってきてからいろんな問題がありました。でも、それは学校と話し合いをしたり、いろいろ修正していただいたり、教えて指導したりして、現在は収まっております。そして地域の中で調べたところ、日本におられる外国籍の方には2つパターンがあることが分かりました。

1つは留学生、1つはお父さん、お母さんが日本に来られて、そこにいつか住まいを構えられて、そして母国の子どもさんやら親戚を呼び寄せるという方の2通りのパターンがあることが分かりました。そしてわかば高校の生徒さんは、主に呼び寄せられた方が来ておられるということで、地域としてもお年寄りたちと交流会を進めまして、非常に和やかに話ができる。日本人は、外国籍の人と会うときは言葉が分からへんから、引いてしまうんです。ところが、相手が日本語が少しできることが分かれば、どんどん、どんどん参加して、「あんた、彼女おるんか」とか、いろいろおばあちゃんはいやみな質問をしますけど、それに外国の方も気持ちよく答えてくれて、そういう交流がどんどん進んでいくような状況にあると思いますので、地域としてはそういう交流を進めていくことによって、多文化共生という感じで進めていくんだと思います。

それから、区長とちょっと話したんですけど、今現在は落ち着いて生活されています。ただし、いろんなアルバイトをして生計を立てておられることもありま

すし。ただ彼らが生活に困ったとき、じゃあそれはどうなるんだろうかなど。貧しいがゆえにいろんな悪いことをしたという過去がありますので、それを同じようなパターンをたどるのではないかということで、それに対して注目いうか、実情はどうかということは今現在よく観察しているところです。それが地域の安全・安心に結びつくのではないかと考えておりますので、この対策も今後どうなるのか、よく注意して見ていかなければならないかと考えております。以上です。

○北口（充）委員

関係者の皆さま、ありがとうございました。それでは議事2、その他ということで事務局から連絡事項がありましたらお願いいたします。

○森区政推進担当課長

それでは事務局から1点お知らせをさせていただきます。

正面、今スライドのほうに映させていただいておりますけれども、各部会でもご説明をさせていただいたところですが、今年度、先ほどもありました大阪府立大阪わかば高等学校の生徒さんと意見交換会をさせていただく予定にしております。開催時期としましては、本年の8月から11月頃ということで、現在学校さんと調整をさせていただいております。開催の趣旨といたしましては、若い世代の方々に区政への関心を持っていただくこと、区役所としましては若い世代の方々の自由な発想や意見をお聞きすることは、今後の区役所の施策・事業展開を検討する上でも重要であると考えておるところでございます。貴重な意見を伺える機会になると思っております。

開催の報告につきましては、下半期の第2回の生野区区政会議においてご報告させていただけたらと思っております。

事務局からのご説明は以上となります。ありがとうございます。

○北口（充）委員

それでは本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

区長の筋原です。長時間にわたりまして、たくさんの貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。感謝を申し上げます。

森口委員はじめ皆さんからは、若い人に魅力あるまち、若い人をどうまちに呼び込むかということと、それから多文化共生、この2つの重要なテーマについてもご意見をいただいたところでございます。若い人にとって、暮らして楽しい、働いて楽しいという、そういうまちにしていくということは非常に重要であると思っております。一方で最近、生野区で新しい店をしたいとか、新しいことをしたいという声は結構ありまして、やっぱりそれは大阪市内にありながらも地価が安いということ、それから、去年からEXPOいくののいろいろなプロ

プロジェクトもやっておりますけれども、その 100 のプロジェクトでも若い方々がいろいろなことをして、自分たちでネットワークを作っているいろいろなことを始めているという、そういう熱量の上がり方もありまして、結構生野区で何かをしたいという声はございます。ただ、その場所である空き家がなかなか市場に出しておりませんので、これについては空き家の掘り起こしを、空き家活用株式会社というところと連携もしまして、今までに大体ざっと 1,000 件近く掘り起こして、オーナーさんにダイレクトメールを送って、活用しませんかと働きかけをしております。また、その空き家、空き地のお試しの活用イベントというようなことも今年から始めて、そして実際に具体的な空き家の物件をお見せして、ここでの活用を聞きたい人はおられませんかと募集もしまして、実際にそれで今、具体的に動いている話も複数ございますので、このようなことを継続して続けていって、是非若い方に生野区に来て、遊んでも面白いし、暮らしても面白いし、働いても面白いよというようなことを広めていって、若い方の呼び込みに努めていきたい、継続していきたいと思っております。

また、多文化共生については、外国人の方がコロナが収束してからご家族を呼び寄せておられるという状況が非常に増えてきている様子で、実際に日本語を誰も話せないご家庭というのも今増えてきております。ですので、この4月から、この外国人の急増している状況の本腰を入れた調査、分析と、その対応策の検討業務というのを、事業者募集をして始めております。NPO 法人の IKUNO・多文化ふらっとさんが事業者となってやっているとござります。

これもまた進捗の状況もこの区政会議でもご報告してまいりたいと思っておりますが、やはりポイントとなるのは、これは明らかに従来の行政手法だけではもう対応できないという段階になっていると思っております。行政だけでなく、またそういう支援機関や地域だけでなく、やはり全てが力を合わせて、まちぐるみで、外国から来た方が学歴も得ることができて、就労の機会も得ることができてというかたちを生活面の支援も、就労面の支援も、それを整えていくということが非常に大事であると思っております。

先般、7月17日に日経新聞で、人物紹介的なところで取り上げていただきまして、そこでも書かせていただいたんですけども、生野区で三栄金属さんという金属加工の会社がござりますが、ここは社員の半分以上がベトナムの方です。工場長もベトナムの方で、奥さんもベトナムの方で、家も買われて永住するというので、子どもさんも地元の小学校に行っておられます。三栄金属さんは日本人もベトナムの方も、全く就労の給与の面でも差を設けずにしておられて、いろいろな生活面のサポートも非常にきめ細かく会社のほうでされておられて、これが一つのモデルになるんじゃないかと思っております。こういう生活面、就労面のサポートを総合的にできる新しいシステムというのが、これからの日本に

必要であり、またそれは日本で一番外国人の住民の比率が高いこの生野区が先導するモデルを作っていかなければならないと思っておりますので、これからしっかりと調査、分析、検討を進めてシステムづくりをやっていきたいと思っておりますので、引き続きのご支援、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

本日長時間、誠にありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○北口（充）委員

ありがとうございました。区政会議は、我々委員が区民を代表して区政に参画する大切な場です。

本日、生野区の取組についての意見の共有がなされましたので、委員の方々につきましては、地域の皆さんに本日の会議の様子をお伝えしていただければと思います。

それでは、これにて令和6年度第1回生野区区政会議全体会を終了します。皆さまお疲れ様でした。ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。